



『元禄土佐国絵図』（高知市立市民図書館蔵）560cm×750cm

幕府の命により作成された土佐国絵図の控図。元禄13年(1700)の年紀がある。編紙(余白部分)に記される土佐国の村数は1076ヶ村、石高は268,484石余。これは、長宗我部地検帳以来の本田に、江戸時代に開発された一村立新田(新田のみの村)を加えた石高である。

## 「地域記録集 土佐の村々」3号 発行にあたって

土佐山内家宝物資料館

「日本人は米を食べ続けてきた」というが、それは正確さに欠ける謂である。飽食の時代といわれ、米離れが進み、むしろ米を如何に消費させるかが問題となつている現在では、およそ考えられない言かも知れないが「日本人は米を食べたい」と思い続けてきたのである。

県域の八割以上を山林が覆い、しかも荒々しい気候の土佐では、それは更に切なる願いであった。良質の米を少しでも安定的に生産するために、平野部では勿論のこと、焼畑を主流とする山分の小さな谷筋でも、営々と新田開発が進められてきた。

そのことは、元親が数ヶ年をかけて実施した検地の結果をみても明らかである。『長宗我部地検帳』には、所謂「土佐二十四万石」の根拠となる数字である田畑併せて二万四千町歩の土地が記録されているが、地検帳三六八冊の内十数冊は新田地検帳であり、この時代の新田開発の進展を証している。近世、それは大開発の時代であった。

特に注目したいのは浦戸湾岸の夥しい新田である。「塩田」と称された干拓新田の多くは、元親が浦戸城に移動してからのものである。天正十六年(一五八八)、居城を岡豊城から大高坂山に移した元親は、わずか三年で浦戸城に移転する。この移転の理由を、長宗我部政権の治水技術の未熟さと考える向きもあるが、浦戸湾岸の干拓新田の数を見るとき、治水技術の問題に結びつけるのは不自然である。天正十九年という年、それは秀吉の朝鮮出兵宣言の年であり、元親の浦戸移転の真の理由は、水軍基地の設置という積極的なものであった。文禄慶長期の臨戦態勢下での新田開発は、兵糧確保の意味を持っていたのであり、つまり、土佐の塩田は海外進出との関係で登場したのである。ちなみに、土佐藩は元親が把握した田畑を本田、山内

氏入国以後の開発地を新田と称した。江戸時代になると、土佐藩は幕府からの度重なる軍役への対応に苦慮することになる。参勤交代と江戸屋敷の維持、将軍や幕閣への献上進上などの恒常経費に加え、江戸城や大坂城の御手伝普請、福島正則改易に伴う広島城請け取りへの出兵など、臨時出費も莫大で、まさに土佐藩は「すりきれ」状態であった。

これを救ったのは山分の材木であったが、有限資源に依存する財政は不安定であり、藩庁の悲願は安定した米の生産と上方への売却体制の確立であった。江戸時代初期の藩政改革を主導した野中兼山の時代、郷土制度の導入などにより大規模な新田開発が進められ、米生産は飛躍的に増大した。洪積台地の開発により全く新しく成立した野市村、干拓新田が村のほとんどを占める潮江村など、大規模な新田村が次々に成立、「里分」は拡大の一途をたどり、土佐藩の石高は江戸時代中期に三十万石、幕末には五十万石にまで増加した。

「土佐は山国」あるいは「海の国土」とい、山分と浦分に挟まれた里分の歴史はややもすれば見逃されがちである。しかし、今でも「新田集落」、「本田百姓」、「新田の縄延び」などという言葉を耳にするように、悲願が込められた田畠の歴史は、人々の意識の中に深く刻み込まれているのである。

かかる里分のありようは、近代現代でまた大きく変わりつつある。人口の集中と都市の拡大、食生活の変化と減反政策、産業構造の変化と離農、それらは古代以来営々と拓かれてきた大地に大きな変化と新しい意味をもたらしている。里分には、山分や浦分とはまた異なる現代的課題が突きつけられているのである。

# 土佐藩における村高上位の村々

土佐藩の村々のうち、石高の上位50ヶ村を表す

	郡名	村名	村高	本田	新田
1	香我美郡	野市村新田	5669.50	—	5669.50
2	高岡郡	高岡村	4647.49	3778.37	869.12
3	土佐郡	朝倉村	3238.42	2938.29	300.13
4	長岡郡	大津村	2965.52	2113.96	851.56
5	土佐郡	潮江村	2901.21	739.40	2161.80
6	長岡郡	大桶村	2742.56	2375.92	366.64
7	香我美郡	山田野地村新田	2728.83	—	2728.83
8	長岡郡	介良村	2564.64	2415.57	149.07
9	安芸郡	一ノ宮村 井ノ口村	2564.39	2102.01	462.38
10	香我美郡	夜須村 手結村	2453.33	1982.05	471.28
11	高岡郡	三野村	2399.14	2296.91	102.24
12	高岡郡	日下村 江尻村	2294.97	1868.17	426.79
13	土佐郡	布師田村	2292.14	1392.10	900.02
14	安芸郡	川北 松田嶋 江川	2253.64	1174.76	1078.88
15	高岡郡	半山本村 大野 窪川 姫野々 他5ヶ村	2249.91	1060.04	1189.87
16	安芸郡	奈和利本村	2242.15	1484.26	757.89
17	吾川郡	長浜村	2172.22	1594.10	578.12
18	吾川郡	弘岡上ノ村	2084.55	1915.38	169.16
19	香我美郡	上田村	2011.27	1832.43	178.84
20	高岡郡	蓮池村	1983.67	1847.14	136.53
21	土佐郡	江ノ口村	1981.04	1440.82	540.22
22	高岡郡	久礼本村 鎌田 大野 北村	1940.31	1232.16	708.15
23	高岡郡	度賀野村	1919.90	1879.22	40.68
24	安芸郡	野根本村 中村 中島 葛原 他6ヶ村	1884.93	1233.68	651.25
25	高岡郡	梶原本村 上成 川口 川井 他4ヶ村	1786.43	734.70	1051.73
26	吾川郡	伊野村	1716.18	1673.73	42.45
27	長岡郡	十市村	1715.49	847.45	868.04
28	安芸郡	田野村	1707.43	679.66	1027.77
29	土佐郡	一宮村	1691.66	902.20	789.46
30	香我美郡	山南村	1691.55	1339.42	352.14
31	吾川郡	弘岡下ノ村	1690.98	1454.93	236.06
32	高岡郡	新居村	1680.59	1060.05	620.54
33	土佐郡	土居 北泉 宮小野 ぬるい 他4ヶ村	1652.46	573.84	1078.62
34	香我美郡	王子村	1591.95	1404.42	187.53
35	吾川郡	東諸木村	1586.35	1456.05	130.25
36	幡多郡	宿茂村	1569.87	1331.59	238.28
37	高岡郡	多之郷村	1567.92	890.67	677.26
38	高岡郡	越知面村 長野村	1550.39	321.06	829.32
39	香我美郡	下田村 前之浜村	1520.11	1442.61	77.50
40	安芸郡	羽根 尾僧	1490.84	904.03	586.81
41	安芸郡	佐貴浜本村 居木 尾崎	1469.91	990.20	479.71
42	吾川郡	弘岡中ノ村	1460.03	1400.56	59.48
43	長岡郡	五台山村	1424.95	46.03	1378.92
44	高岡郡	上ノ加江 笹葉 押岡 小草	1416.27	972.04	444.24
45	香我美郡	山北村	1410.74	1120.28	290.46
46	高岡郡	波介村	1409.78	1293.65	116.14
47	安芸郡	和食本村	1406.63	982.38	424.25
48	安芸郡	津呂本村 三津 椎名	1345.42	536.32	809.10
49	高岡郡	下分村	1337.00	895.32	441.68
50	土佐郡	江ノ口村 比島村新田	1334.16	—	1334.16

上記表は「土佐七郡本田新田地払帳(元禄地払帳)」(17世紀末)の石高表記による  
(松本瑛子編集・発行「本田新田地払帳」1980年を参考に作成)



『元禄土佐国絵図』(高知市立市民図書館蔵)より、香我美郡・長岡郡・土佐郡の平野部